



すまいるだより

「子どもの行動を見てみよう」

vol 14

ある保護者の方から言われたことのひとつが、とても

印象に残っています。子育てでつらいことは、「私の子育ては正しいのだろうか」「自信がゆらいでしまう」と話されたことです。

子育てには楽しい面もたくさんありますが、難しいと感じる場面もたくさんあるはずです。気持ちや体力に余裕がない子育ての中で「思わず怒鳴ってしまった」「手をあげそうになった」という声や、「自分の声が子どもに響かない」「いうことを全く聞かず報われない気がする」と悩みを抱えることは少なくありません。

子育てをつらく感じるときは、がんばりすぎているのかもしれない。自分を追い詰めず、誰かに気持ちを打ち明けたり、子どもの行動をひもたくことができるように「観察」

することをすすめます。

子育てで大切なことは、子どもの行動を理解することです。実際に目の前の子どもを見るときは「困った行動」を見るだけでは、関わり方の方向性は見えてこないと言われています。

そこで今回は子どもの行動を観察ポイントをご紹介します。

①子どもの長所は。

子どもの長所に目を向けることは、子どもを理解するときには、一番大切なことです。子どものマイナスをゼロにすることを考えるよりも、プラスを生かす子育てを考えるためです。

②子どもの不安はどんなこと。

気になる行動や問題行動は、わからないことやできないことからくる「不安」の表れであることが多いとされています。特に幼い子どもは、自分が不安で

あることを言葉で伝えることができないため、行動で表します。

そうした行動をどのようになくすかを考える前に、行動の背景にはどのような不安があるのかを考えることが大切です。

③子どもが苦手なことは。

ここで伝えたい苦手とは、「できない」ということだけでなく、なぜできないのかを考え、た上での「苦手なこと」です。

例えば、「注意する度に目が泳いで聞いていないように見える」のは、『聴くという力が極端に育っていないから』とか、『みんなと一緒にやるダンスなどのリズム遊びに参加したくない』のは、『身体感覚をうまく使うことができないから』というように、子どもが人知れず苦労している面を探ることです。

④子どもはどのくらいわかってる。

最後はとても難しい視点ですが、どこまでわかって行動しているのかを見極めることです。

【子育ての相談】

子育て世代包括支援センター
「えがお」（健康福祉課内）
電話 0241(62)6170
メール egao@minamitaizu.org

「わかっているはず」「わかっているのにやらない」と判断する前に、「わからないかも」と考えてみてください。

実際の観察場面では、「長い文章が苦手な子」「しゃべっているほどは理解していない子」「ルールが分かっている子」などを遊びにまざっている子などを見かけることがあります。分からないことは、子どもをとても不安にさせるものです。

このようなことが観察できると、行き詰ったように感じる子育ての中にも手立てが見つかります。子育て支援に携わる私たちは、こういった「観察」を練習しています。

自分の子どもの行動を客観的に観察できなくて当たり前ですから、もし家庭だけで観察が難しいときは、ぜひ近くにいる子育ての専門家(保育士、幼稚園教諭、子育て支援セン

ター・学校・学童の先生方、保健師、心理職など。)に思い切った悩みを打ち明けてください。そして、そんな相談先の一つに、私たち「えがお」のスタッフも加えていただけるとありがたいです。

子育ての工夫を見つけた経験は、ゆらいでしまった自信を取り戻す大きなキッカケになると思います。



【おすすめ図書】
「いつかあなたが おおきくなったら」
エミリー・ウィンフィールド・マーティン・作 なかがわちひろ・訳